

海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	オーストラリア 西オーストラリア州 パース
研修先	西オーストラリア州・兵庫文化交流センター
プログラム実習期間	平成 30 年 8 月 21 日～平成 30 年 9 月 8 日
学部/研究科・学年	国際文化学部 3 年

インターンシップ就業実習 報告書

西豪州兵庫文化交流センター（以下センター）でのインターンシップにて、主に行った業務は以下の 4 つでした。

1. School visit
2. 日本語教室の補助
3. Chatter box
4. 掲示板の作成

これらの業務内容について、以下に報告いたします。

1. School visit

School visit は、日本語や日本の文化を勉強している現地の学生が、センターを訪問して日本の文化を体験するプログラムです。私の就業中には 3 校の訪問がありました。

最初の学校では「お弁当」に関するプログラムを行いました。私たちの主な仕事は、日本のお弁当を紹介するプレゼンテーションを行うことで、「お弁当の定番具材の紹介」「曲げわっぱ弁当」「駅弁」の 3 つを取りあげ、紹介しました。プレゼンテーションでは、写真を多く用いて視覚的に楽しめるように工夫し、さらに生徒たちとインタラクティブに交流できるように、多くのクイズを用意しました。クイズでは、答えではなく自分の意見を述べるような質問に対しても、多くの生徒が積極的に挙手し、回答していたことが印象的でした。さらに、粘土でお弁当の具材を作るアクティビティーの補助も行い、生徒たちに話しかけたり、日本語を書く手伝いなどを行いました。

次の学校は「桃太郎」に関するプログラムを行いました。私たちの主な仕事は、アクティビティーの案を出すことと、運営時に内容の説明を行うというものでした。私たちが出した 4 つの案の中から、書道と水墨画を用いた「桃太郎の旗作り」と、ちぎり絵を用いた「桃太郎の服作り」が選ばれ、生徒の前での書道のデモンストレーションやアクティビティー時のアドバイスをを行いました。

最後の学校では、折り紙の兜作りと書道を行いました。その際も、デモンストレーションやワークの補助を行い、書道の完成品にカタカナで彼らの名前を書いてプレゼントしました。

School visit 全体を通して感じたことは、生徒たちに楽しんでもらうためには、笑顔で元気よく、たくさん声をかけること、そして生徒の前に立って話をするときには、質問を多く投げかけて生徒たちに考えてもらうことが大切だということです。普段大学な

どで行うプレゼンテーションとは違ったスキルが求められましたが、観客に合わせて、一番伝わりやすい方法をとる必要性を実感しました。

2. 日本語教室の補助

センターでは週に2日、計5回の日本語教室が開講されており、その授業に数回ほど参加しました。授業内では、会話練習の補助や、問題を解く際に質問対応をしました。

初級、中級クラスでは主に英語を用いて質問対応をしました。上級クラスではほとんど日本語で説明するように心掛け、こちらからも積極的に話しかけるように心がけました。この業務を通して、多くのオーストラリア人が日本に興味を持ち、日本語の勉強をしているということを知り、さらに外国語として日本語を教える際にどのような工夫が必要かということを知りました。特に、日本語のみを使う授業では、単語の意味を説明する際にジェスチャーを使う（「暑い～」と言いながら汗を拭くしぐさをし、「飲みます」といって飲むしぐさをし）ことで、言葉の響きと動作が結びつきやすく、単語を記憶する際に役立つということも学びました。

3. Chatter box

Chatter box は、毎週土曜日にセンターに多くの人が集まり、自由に会話するというプログラムです。Chatter box では参加者によって日本語レベルや知識、求めるものが異なるので、日本の文化に興味を持っている人とは英語で話し、日本語を勉強している人とは日本語での会話練習をするなどの対応が求められました。参加者の中には日本に長く在住された経験を持つ方もおり、日本人である私が知らないことをたくさん教えていただきました。さらに、旅行で日本を訪れた方も、私が行ったことのない観光地の話もしてくださり、もっと日本にも目を向けて知識を増やし、観光などを通して日本を深く知りたいと感じました。

また、最後の Chatter Box では、インターン生2人の共通点から、関西弁の講座を行いました。会話のデモンストレーションにより標準語と比較したり、関西弁特有の言葉を紹介することで、その違いを感じてもらえたと思います。多くの参加者が、講座終了後も近くの人と会話練習をしたり、私たちに積極的に質問してくださったので、自信に繋がりました。

4. 掲示板の作成

掲示板作成の中で一番大きな業務は、ボード一面を使った「日本の秋紹介」コーナーを作成するというものでした。私たちは、主に「紅葉」と「お月見」を取り上げ、関西の紅葉スポットの紹介と、お月見の説明、マクドナルドの秋限定商品である月見バーガーの紹介、秋の料理の紹介などの掲示物を作成し、ボードを秋らしく飾り付けしました。この掲示板をきっかけに、日本語教室や Chatter Box でセンターを訪れた方と会話できたことが多かったのもよかったです。また、このほかにも自己紹介の掲示物や、定期的に行われる日本映画観賞会の広告づくりなども行いました。

感想および意見

インターンシップ期間中に学んだことは、以下の3点です。

1. オーストラリアの生活
2. 日本とオーストラリアの関係
3. 観光地としての日本の魅力

これらの内容について、以下にまとめます。

1. オーストラリアの生活

オーストラリアの生活で感じた、日本と異なる点を3点紹介します。

1点目は、自然との触れ合いの多さです。特にパースはオーストラリアの都市でも自然が豊かで、保護区や大きな公園が市内に多く存在し、少し西へ行けば美しいビーチが広がり、北へ行けば砂漠の彫刻と言われる世界遺産のピナクルズもあるという素晴らしい環境でした。そんなパースにはハイキングが好きな方が多く、週末には公園やビーチ沿いを散歩する人や、公園でスポーツやピクニックを楽しんでいる人が多く見受けられました。実際に私のホストファミリーも毎朝近くの公園を散歩し、週末には私をビーチ沿いのドライブや公園に連れて行ってくださり、パースの自然を謳歌できました。

2点目は、自然への配慮と愛情の強さです。オーストラリアの自然環境は独特で、輸入時の検疫が厳しいことは有名ですが、実生活においてその点を感じる瞬間が何度もありました。例えば、研修時の季節が春だったこともあり、ホストファミリーとワイルドフラワー（原産の野生の花）を見に行った際、ほとんどの花の名前や特徴を覚えておられ、知識の豊富さに驚きました。また、ホストファーザーとシスターは特に鳥が好きで、原産の鳥の辞典を数冊持っており、それを見ながら私に様々な鳥や動物の知識を教えてくださいました。さらに、休日に動物園や水族館を訪れた際、飼育されている動物が全て国産だったことから、独自の生態系への意識や自然の多様性を感じました。

3点目は、一家団欒の時間の長さです。私がインターン先での就業を終えて帰宅すると基本的にファミリーは全員帰宅しており、夕食後はリビングに集まってドラマや映画を鑑賞しました。リビングで過ごすときは各々課題やSNSのためにタブレットを触っていることが多く、センターの日本語クラスに通っているホストマザーに日本語を教えたり、テレビの内容の雑談をするなど、コミュニケーションの機会を多く持つことができました。家庭での過ごし方は家によって様々だと思いますが、個室に籠らず家族全員が同じ空間で過ごすことで、日本の平均的な家庭と比較すると家庭内のコミュニケーションの機会を多く持つ傾向があるのではないかと感じました。

2. 日本とオーストラリアの関係

滞在時に、日本とオーストラリアの結びつきの強さを実感した経験が2つあります。

1つ目は、外国語教育における日本語の人気が高いということです。オーストラリアの学校では外国語の授業で日本語を選択する学生が一番多く、パースにおいても二番目の人気を誇るそうです。他の英語圏では、スペイン語やフランス語など、近年は中国語の需要が高まる中で、多くのオーストラリア人が一度は日本語教育に触れているという

ことは、一日本人として嬉しく感じました。また、School visit では実際に現地の小学生が幼い頃から日本語を勉強し、学校での劇発表やセンターへの訪問を通して日本の文化に触れる機会を持っている姿を目の当たりにしました。私自身が受けた教育と比較しても、学習速度の速さとレベルの高さを痛感し、刺激を受けました。

2つ目は、オーストラリアに滞在する日本人の多さです。例えば Chatter box では、ワーキングホリデーでパースに滞在されている方や、オーストラリア人と結婚して長く住んでおられる方、現地の企業に就職し勤務されている方など、様々な形でオーストラリアに滞在される日本人の方々にお会いしました。オーストラリアを選択されたきっかけは様々だと思いますが、このように多くの日本人が滞在している理由の1つに、日本人気によるウェルカムで過ごしやすい雰囲気挙げられると思います。

3. 観光地としての日本の魅力

私は、自身の興味から、オーストラリア人が観光地としての日本のどの側面に興味を持っているかをヒアリングしました。以下は特に多かった4つの回答です。

1つ目の側面は「歴史」です。建国からの歴史が100年余りの国に住む彼らにとって、日本の長い歴史と、それに付随した様々な文化が魅力的とのことでした。

2つ目の側面は「建築」です。この理由は1つ目でも取り上げた歴史的で独特な建造物が魅力的だからというものや、巨大な地震にも耐えうる強靱さ、狭い土地を有効活用するスマートさが魅力だということでした。

3つ目の理由は、「日本人の性格がもたらす雰囲気」です。控え目で奥ゆかしく、さらにおもてなしの精神で高いサービスを提供する日本人への評価の高さは、オーストラリアも例外ではありませんでした。この魅力を挙げた方は、特に日本を1度訪れ、そのサービスを体験された方が多かったように感じます。

4つ目の理由は、「日本の自然」です。水資源が豊富で青々とした緑（オーストラリアの植物は灰色がかっており、枯れかけているみたいでしょうと言われました）はもちろん、パースでは見られない「雪」も大きな魅力の一つで、スキーをするために日本を訪れる方も多いそうです。彼らとの会話から、様々な魅力を持つ日本は「海外旅行の定番地域」としての認識があることがわかり、とても嬉しく感じました。

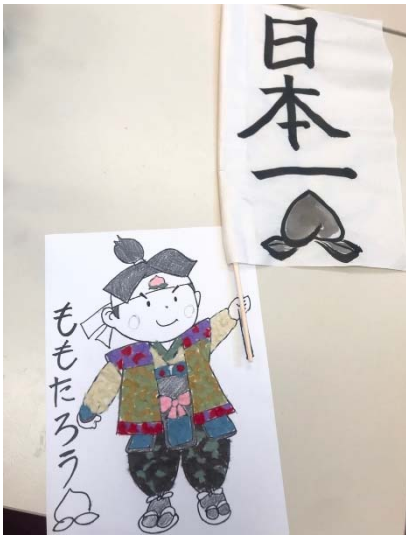
このような貴重な経験をさせてくださった西豪州兵庫文化交流センターの皆様、ホストファミリーの一家、国際交流課の方々に感謝しています。ありがとうございました。



日本の秋紹介の掲示板



お弁当作成のアクティビティ



桃太郎のアクティビティ



Pinnacles 観光



オーストラリアの国花 Wattle



典型的な昼食 (ハムサンド)